

常念岳からの下り

さあーあと30分の大下りだ。明日尋ねる横通岳から大天井岳へと続くのびやかな稜線を展望してから下山だ。

下山路はガタガタした鬼岩上を東へ進み、左へ廻り込みながら下り始めるが、登りと又違った急斜面で、花崗岩の累積するそれも玉石型の不安定な積み重ねで、よく注意に乗りないと浮石だっているから始末が悪い。できるだけ大きく安定した石を選んで次々飛び移る早業の連続で下る。直下に見えているものの400メートルの大下りは大変だ。

優雅で幻想的な印象深い山

常念岳

常念行者の開いた山

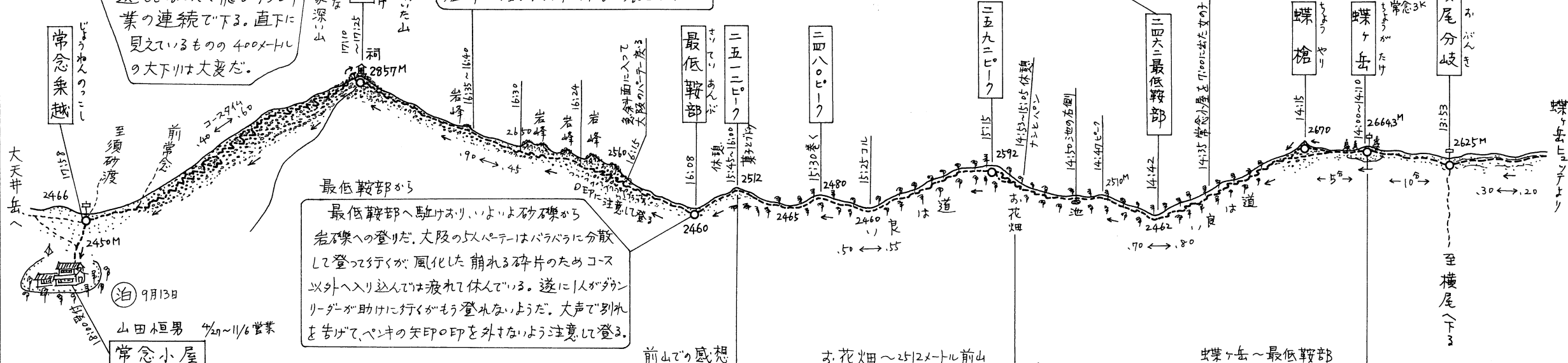
コブ〜頂上

一岩峰を乗り越えて振り向き大段のパーティーは前山へ集って戻って行くようだ。蝶ヶ岳ヒュッテへ戻ってもあの状態では4時間かかることだろうに、みんなで荷物を持って越えた方が近いのと思いつながら、ピッチをあげる。最後のコブでアベックと単独行者の3人を追い抜いて常念岳頂上に着く。右へ廻り込んで大きな岩塊が積み重なったピークへタッチし、祠に深々と頭を下げる。今迄歩いた道を振り返り見下しながら、岩峰に腰掛け汗の引くまで展望を楽しむ。

鞍部〜2592ピークの手前

鞍部から少し登って平坦路を行くと、左手に細長い池があるが、茶色の水で汚い。その先車側の草付の緩やかな斜面の道を登るようになるが、夏季はシナノキノバイなど咲き乱れるお花畑であろう。パーティーが休憩に入つたので私も腰をおろす。ここで御節介のようだがパーティーの皆さんに……常念の大登りを達成するために、持っているものがあるなら、パレ菓子、果物なんでも食べていくように話をしますが、大変疲れていてタバコを吹かすのみ、止むを得ずおだけパレとナミを食べる。

最低鞍部の少し手前で道をよけて休憩している愛想の大変良いお子2人と出会う。「常念小屋も何時に出られました……?」と尋ねると、「私たち7時に出たんだけれど、途中遊んで休憩ばかりしていたので遅くなってしまったのよ。」驚いた振りをすると、「まだ大分ある……?」と聞く。そうだ20分蝶ヶ岳の下つて来たので、あと30分も頑張ればピークですよ。その先は平坦路30分でヒュッテです。」と話して、ガンバッテで到着。最後下りにくい斜面を飛び降りるように後を追って来る。



最低鞍部から

最低鞍部へ駆け上り、いよいよ石礫から岩礫への登りだ。大段の5人パーティーはバラバラに分散して登って行くが、風化した崩れる碎片のためコース以外へ入り込んで疲れて休んでいる。遂に1人がダンリーダーが助けに行きかもう登れないようだ。大声で「別れを告げて、ペンキの矢印を印を外さないよう注意」で登る。

前山での感想

ピークから対面する常念岳はものすごく大きく高く遠くに見える。1時間では登れないような気さをする。裏銀座の三俣山荘から鷲羽岳への砂礫の急登に匹敵するほどの登りだ。全く素晴らしいスロープだ。私も今迄常念・蝶ヶ岳コースは穂高の前山くらいに軽く思い大したことはない、たかを食っていたが、今朝から歩いてきた道やこの常念岳南面の岩峰をもった男小生的な稜線は一級のものだと、今さらながら考えをあらたにする。よし最後のファイトをたぎらせて、1時間で登らなくては……谷田さんも山の向うで待ちこかれ心配もしているだろう。

お花畑〜2512メートル前山

重い腰を上げたパーティーについてジグザグ斜面を登る。途中道は2つに分れパーティーは左を、私は右を登ってみる。登り切った広場で2つの道は出会う。2592メートルのピークは廻り込んで避け、丘状の緩やかな良い道から下りようになる。急になったと思つたころ谷を通過する。すぐ低い山の登りを越えて又次のピークに登る。予定以上の登り下りに5人パーティーもうんざり参っている態度だ。とうとう2512メートルの最後の前山の頂上で腰をおろしてしまう。リーダーにも一度話す。「この大きな登りを1時間で越すには、どうしてもここで腹ごしらえをするように」と。15分の休憩もタバコだけで元気がない。私は早速菓子和ぼどうを食べて登りに備える。

蝶ヶ岳〜最低鞍部

現在14時10分。ここから常念小屋まで4時間20分のコースタイムだ。休憩無しで頑張っても到着は18時にはなるだろう。蝶ヶ岳で先程から休憩していた5人パーティーと話をする。リーダーもしっかりしている様子なので一緒にお願いします。というこにになり後について行く。5人パーティーは蝶ヶ岳の下の道を早々に下りて行ったが、私は一応蝶ヶ岳も通るにゃーと思ひ、岩礫のピークに立つ。常念岳を正面に見直して、彼等を追って一気に下る。ガラガラした道を少し下ると急な下りとなり、樹林帯へ突込むようになる。高度はぐんぐん失われて行き惜しい気がする。下れ下れと先が思ひやれる。夏なら高山植物を見ながらのよい斜面だが、今回は暗くなるまでにどうしても常念小屋へ着かなくては最後の区間だけあつて気がせわしい。

今朝上高地に6時に出発。途中大滝山コースに変更してコースタイム12時間の長距離を余裕をもって歩き通した。計算した通りの18:00程度受付に立つ。早速谷田さんのこと話し、部屋を聞く。市主人もすぐわかって言付を話す。名古屋の江口さんのことを話してから7号室へ、待ちかねていた谷さん=ココ顔で喜ぶ。装具を置いてすぐ食堂へ今日のコースを話し合ひながら一杯飲む。次から次へ話は切れな。部屋へ戻って挨拶、同宿のよしみで皆さんと山の話に花を咲かせる。横手市からはばりやて来た松井さん、関東の人や稲沢から元気な石田さんと1時間ほど山の話で賑やかに過ごす。こんな話りも山歩きを楽しく、益々ファイトを盛り上げる原動力になるものである。明日は快晴間違いない星の降るような夜だ。早く寝て朝は元気に飛び出そう。

(6軒の室で7名 シーズンオフは有難い)  
(夕食はトンカツ、サラダでメニューも最高) ￥1泊2食400円